

みずほCustomer Desk Report 2019/12/23 号(As of 2019/12/20)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値 GBP/USD	109.43 AUD/USD
TKY 9:00AM	109.39	1.1123	121.69	1.3016	0.6891
SYD-NY High	109.52	1.1124	121.69	1.3079	0.6907
SYD-NY Low	109.26	1.1067	121.20	1.2979	0.6883
NY 5:00 PM	109.43	1.1083	121.25	1.2984	0.6905
NY DOW	28,455.09	78.13	日本2年債	-0.100	1.00bp
NASDAQ	8,924.96	37.74	日本10年債	0.006	1.55bp
S&P	3,221.22	15.85	米国2年債	1.6294	▲0.05bp
日経平均	23,816.63	▲48.22	米国5年債	1.7329	▲0.13bp
TOPIX	1,733.07	▲3.04	米国10年債	1.9180	▲0.33bp
シカゴ日経先物	23,830.00	15.00	独10年債	-0.2535	▲1.65bp
ロンドンFT	7,582.48	8.66	英10年債	0.7810	▲1.85bp
DAX	13,318.90	106.94	豪10年債	1.3090	5.55bp
ハンセン指数	27,871.35	70.86	USDJPY 1M Vol	3.95	▲0.18%
上海総合	3,004.94	▲12.13	USDJPY 3M Vol	5.08	▲0.06%
NY金	1,480.90	▲3.50	USDJPY 6M Vol	5.53	▲0.15%
WTI	60.44	▲0.74	USDJPY 1M 25RR	-0.90	Yen Call Over
CRB指数	185.04	▲0.08	EURJPY 3M Vol	5.32	▲0.08%
ドルインデックス	97.69	0.31	EURJPY 6M Vol	5.85	▲0.13%

東京	東京時間のドル円は109.39レベルでオープン。材料にかけ中、109.26-109.40と値幅10銭程度の動きで膠着。来週にクリスマス休暇を控え、動意にかけける展開が続き、結局109.31レベルで海外時間へ渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、109.31レベルでオープン。ロンドン時間も閑散とした相場で109.26-109.41と東京時間から続くレンジ内での推移となった。結局、109.31レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.3018レベルでオープン。昨日の英中銀金融政策委員会で利下げに投票したハスケル委員が講演を行ったものの、目新しさに欠け、1.3011-1.3049のレンジ内での動きとなった。結局、1.3031レベルでNYに渡った。(ロンドントルーパー 00531 444 179 永井)
ニューヨーク	海外市場のドル円は、手掛かり材料が乏しいほか、来週にクリスマス休暇を控えている中、109.30近辺の狭いレンジで推移し、109.31レベルでNYオープン。朝方は米国の第3四半期GDP確報で前期比年率が予想通りで、個人消費が予想を上回った一方、カダの10月小売売上高と11月新築住宅価格指数が予想以上に弱い内容だったことがドル買いをサポート。その後、米株が史上最高値を更新したことや、トランプ米大統領が「中国の習主席と貿易合意についてとても良い話ができたと伝わる中、一時109.53まで上昇するが、米金利の低下する中、更なる上値追いは限定的だった。午後は週末を控え、109.50近辺で小動きとなり、109.43レベルでクロス。一方、海外市場のユーロドルは1.1120近辺でもみ合いでスタート。その後、目立ったユーロ売りの材料が見当たらなかったものの、前日安値(1.1107)付近の水準を割り込むと、ストップを巻き込みながら1.1090まで下落し、1.1101レベルでNYオープン。朝方は海外時間の流れを引き続き、ユーロ売り優勢の展開が続く。10時発表のユーロ圏12月消費者信頼感が予想を下回ったことも売り圧力となり、一時1.1067をつける。売り一巡後、小幅反発し、1.1083レベルでクロス。

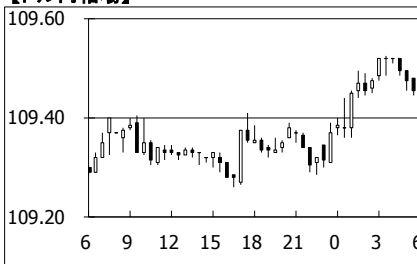
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
12月20日	08:30	日 CPI/コアCPI/コアコアCPI(前年比)	11月 0.5%/0.5%/0.8%	0.5%/0.5%/0.7%
	18:30	英 GDP・確報(前期比/前年比)	3Q 0.4%/1.1%	0.3%/1.0%
	22:30	米 GDP(年率/前期比)	3Q T 2.1%	2.1%
	22:30	米 個人消費	3Q T 3.2%	2.9%
12月21日	00:00	欧 消費者信頼感	12月 -8.1	-7
	00:00	米 個人所得	11月 0.5%	0.3%
	00:00	米 個人支出	11月 0.4%	0.4%
	00:00	米 PCEコア(前月比/前年比)	11月 0.2%/1.5%	0.2%/1.4%
	00:00	米 ミシガン大学消費者マインド・確報	12月 99.3	99.2

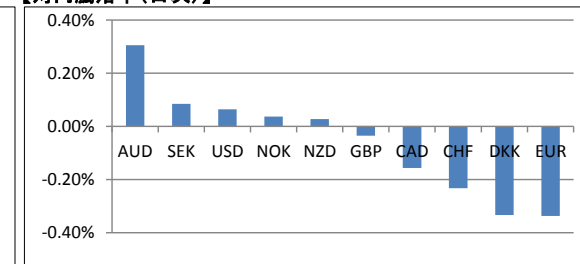
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
12月23日	22:30	米 耐久財受注(前月比)・速報	11月 1.5%	0.5%
	22:30	米 コア耐久財受注・速報	11月 0.2%	0.5%
12月24日	00:00	米 新築住宅販売件数	11月 730k	733k

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 来年の日銀の政策は

先週半ばの12月18～19日に本邦では日銀が金融政策決定会合を開催した。広く予想されていた通り、金融政策のすべての項目にわたって現状維持。日本銀行の景気の基調判断は、「所得から支出への前向きな循環メカニズムが働くもとで、基調としては緩やかに拡大している」で据え置かれた。7月会合において、2%物価目標に向けたモメンタムが損なわれる場合においては、追加緩和も辞さないとの意思を明確にしていたが、足許景気状況は底堅い。2019年7～9月期に日本経済は前期比0.4%、年率1.8%のペースで拡大しており、1年間を通じて潜在成長率0.4%を上振れる経済成長を見せている。経済を支える上で、外国人による日本への旅行も重要な要素となろう。インバウンド消費を担う訪日外国人の推移も足許その勢いを取り戻している。日韓関係の悪化から、韓国人の訪日客が急落していたが、ここも増加に反転。2019年の訪日客は、3190万人程度と昨年の3119万人を超えて着地する見込みだ。つまり8年連続で訪日外国人の数が増加することになる。オリンピックイヤーとなる来年、さらに訪日外国人の数が増えると予想され、日本の景気はインバウンドによる消費の下支えにより安定しよう。かかる状況下、日銀はステルステーパリングを推し進めるだろう。(原田)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ベア	ブル	ベア	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ブル	ブル	ブル	ベア

ブル	ベア
11	9

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償で提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。